

薬用植物園かわらばん

いま、こんな草木も楽しめますよ！
草木に囲まれ心も体もリフレッシュ…



2020年
3月5日
第80号



ニオイカントウ (キク科)

第二圃場で草取り作業中、薄紫色の花を見つけたので、何かたと顔を近づけると、甘いバニラのような香りがするので、栽培員さんに聞いたところ「ニオイカントウ」と教えてくれました。変な名だなと思い調べてみましたら、漢字で「匂款冬」と記されていました。「款冬」とは「フキ」のことで、どうやらフキの仲間が甘い香りがすることからの名のようなようです。地中海沿岸地方原産の多年草で、昭和初期に鑑賞用として輸入され栽培されているようです。別名をウインターヘリオトロープといいます。ヘリオトロープとは、ペルー原産、南米に広く分布するムラサキ科キダチルリソウ属植物の総称で、バニラのような甘い芳香をもち、かつては花から採取した精油成分を香水の原料にしていました。ニオイカントウもそれと似た香りがしますが、こちらは食用、薬用、香料の原料、いずれにも利用されたことがないようです。

今、こんな草木が
楽しめます！！

センダン (センダン科)

近頃、温室の横を通るとコツコツと何かが落ち温室の屋根を叩いているようです。上を見るとセンダンに沢山の果実が付いていて、下にも果実が落ちています。この果実が生薬、川棟子(センレンシ)、別名として苦棟子(クレンシ)、樹皮が苦楝皮(クレンピ)の原料となります。センレンシは、日本薬局方外生薬規格に記載され、クレンピは過去の日本薬局方に記載されていましたが、現在は削除されています。どちらも漢方医学では使用せず、民間薬として、センレンシは鎮痛を目的に腹痛や疝痛に対して煎じて服用、また生の果肉をすり潰して、ひび、あかぎれ、しもやけに塗布して使われ、クレンピは駆虫薬として使われていました。果実は鳥に好まれないようですが、ヒヨドリは来ていました。初夏の香りよい淡紫色の花が楽しみです。なお、諺にある「梅檀は双葉より芳し(せんだんはふたばよりかんばし)」の「センダン」は、香木として知られるビャクダン科ビャクダンを指します。